

## いわて自然公園特派員だより(岩手県自然保護課)

場所：八幡平の冬期コース標示

令和5年2月5日(日) 情報提供(文、写真) 岡野 治



目印の竹竿運搬(1月29日撮影)



竹竿設置(藤助森西側)

岩手・秋田県境部にある八幡平では綺麗な樹氷原が広がりますが、アスピーテラインが通行止めとなる冬期は、秋田八幡平スキー場から登るコースがメインコースとなります。どこでも歩ける雪原はコースが不明瞭で、地元の鹿角市山岳会では、冬期コース誘導のための竹竿等による目印設置を行っており、その作業手伝いも兼ねて、八幡平の様子を見てきました。3回目の作業であった今回は、山頂部の視界は50m以下でありあまり良くなかったものの、風は10m程度であり強くなかったため、山頂、陵雲荘まで進むことができ、秋八スキー場から陵雲荘までの目印設置ができました。(竹竿は30~40m間隔)



八幡山頂デッキ(展望台)



八幡沼畔の陵雲荘前

地球温暖化により、近年は立派な樹氷が見られなくなりましたが、今のところ、今年も樹氷の出来はあまり良くないようです。山頂西側の藤助森から山頂間は、樹氷原となっていたものの、樹氷は痩せ気味でした。陵雲荘付近まで下がると、現れている枝葉が目立ち、樹氷の出来は70~80%でした。積雪はほぼ例年並みでしたが、風が強かったようで、樹氷間のウネ(溝)は大きく、山頂デッキや陵雲荘の南側は雪が飛ばされていました。



一瞬、陽が射してくれた樹氷原(藤助森西側)

バックカントリースキーでの事故が、今年も発生しています。緩傾斜が多い八幡平では、雪崩発生の危険は少ないですが、過去に雪崩による死亡事故も発生しています。危険な斜面には近づかないなど、慎重に行動して、事故を起こさないようお願いいたします。